

経営とは何かを考える(1) —「勉強とは何か」を考える—

林 明夫

《1. 何のために勉強されていますか。》

Q：人は何のために勉強していると考えますか。

A：(林明夫：以下省略)よく生きるためだと私は考えます。

(1)「人は皆『よく』生きようとしています。人間は人間である限り、いつでも、どこでも、だれでも、どういうことがあっても、一人ひとりが例外なく、それぞれに『よく』生きようとしているのです。」

*村井実著「みんなに伝えたい教育問答」東洋館出版社、2007年7月20日刊、6～8ページより引用。

人はよく生きるために勉強するのだと私は考えます。

(2)人はよく生きるために仕事をします。「人は何のために働くか」といえば、「生活できるだけの収入を得るため」と「仕事を通して自己実現するため」と私は考えます。このような仕事のことを「ディーセント・ワーク(Decent Work、ちゃんとした仕事、きちんとした仕事、適正な仕事)」と言うのだと私は考えます。この「ディーセント・ワーク」に就くためには、「勉強」して「雇われる能力(employability エンプロイアビリティ)」を身に付ける必要があります。

(3)「雇われる能力(エンプロイアビリティ)」には、レベルに応じて4段階あります。

- ①経営者(トップマネジメント)としての雇われる能力(エンプロイアビリティ)
- ②中堅幹部(ミドルマネジメント)としての雇われる能力(エンプロイアビリティ)
- ③現場の管理者(ローアマネジメント)としての雇われる能力(エンプロイアビリティ)
- ④一般社員としての雇われる能力(エンプロイアビリティ)

1つ1つの段階の「雇われる能力(エンプロイアビリティ)」を身に付け、「ディーセント・ワーク」をめざして、人は「勉強」し続ける必要があります。

(4)この「雇われる能力」は「強化」し続ける必要があります。「能力強化」を英語では「empowerment(エンパワーメント)」と言いますが、この empowerment には、もう一つ「権限委譲」という意味があります。つまり、「能力強化」されてはじめて「権限委譲」がなされるということです。

「能力強化」が果たされなければ「権限委譲」はないということを、この「empowerment(エンパワーメント)」ということばは教えてくれています。そのために「勉強が必要」なのだと考えます。

(5)「トップマネジメントとしての雇われる能力(エンプロイアビリティ)」にも、いくつかの段階があります。

- ①大会社のトップとしてのマネジメント
- ②中会社のトップとしてのマネジメント

③小会社のトップとしてのマネジメント

④零細会社のトップとしてのマネジメント

零細から小へ、小から中へ、中から大へと会社の規模が変わる毎に、それなりの勉強が求められます。(零細会社はセスナ、小会社は中型飛行機、中会社はジャンボジェット機、大会社はロケットなど、乗り物により求められる免許状や飛行技術が全く異なるのと同様に、会社の規模によりトップマネジメントとして雇用される能力(エンプロイアビリティ)が異なり、その都度「勉強」をし直す必要があります。)

(6)年齢に応じて「よく生きる」ために勉強することも大切です。

①参考になるのが、孔子の教えを書き伝えた「論語」の「為政第二」。

「子曰く、吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして^{まど}惑わず。五十にして天命を知る。六十にして^{したが}耳順う。七十にして心の欲する所に^{のり}従えども^こ矩を踰えず」

(通釈)孔子が言った。私は十五歳で学問に志し、三十歳で、思想も、見識も確立した。四十歳で心の惑いもなくなり、五十歳で、天から与えられた使命を自覚した。六十歳で、何を聞いても耳にさからうことがなくなり、七十歳になると、自分の欲望のままに振舞っても、その行動が道徳からはずれることがなかった。

*須永美知夫著「論語抄」(第3版)足利市教育委員会(史跡足利学校事務所)、平成15年9月1日発行、9～10ページより引用。

②15歳までにする勉強、30歳までにする勉強、40歳までにする勉強、50歳までにする勉強、60歳までにする勉強、70歳までにする勉強の内容が充実してはじめて、孔子の言う状態になります。そのためには、

㉗15歳までに「学問に志す」だけの勉強をすること。

㉘30歳代までに「思想や見識を確立する」だけの勉強をすること。

㉙40歳代までに「心の惑いがなくなる」だけの勉強をすること。

㉚50歳代までに「天から与えられた使命を自覚する」だけの勉強をすること。

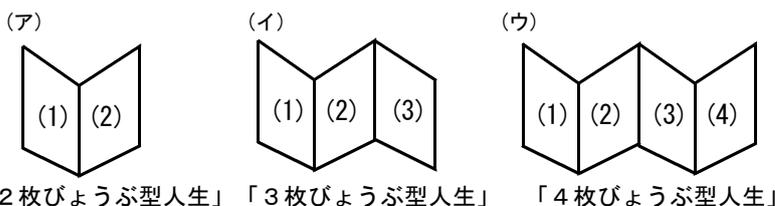
㉛60歳代までに「何を聞いても耳にさからうことのない」だけの勉強をすること。

㉜70歳代までに「自分の欲望のままに振舞っても、その行動が道徳からはずれることがない」だけの勉強をすること。

(7)私は、「びょうぶ型人生」を目指して勉強することも、「よく」生きるためには大切かと考えます。

①「びょうぶ型人生」とは、人生のびょうぶを何枚かに設定して、そのびょうぶをしっかりと立て、「よく」生きるために勉強するものです。

②



③例えば、1枚目は「仕事」、2枚目は「趣味」のスポーツ、3枚目は「ボランティア活動」、4枚目は「執筆活動」というように、1つ1つのびょうぶはそれぞれの「勉強」を積み重ねてはじめて充実する。1つ1つのびょうぶの内容は異なるものだが、同一人物がやるものなので、高さや、厚みを調整するというバランスも必要。

Q：林さんは何のために勉強しているのですか。

A：私ですか。私は、私に与えられた「社会的使命(mission、 ミッション)」を少しでも全うするため、果たすために勉強しています。

Q：例えばどういうことですか。

A：(1)私は、開倫塾という学習塾を創業し、皆様のお陰で今では 6000 名以上の塾生をもつ学習塾になりました。開倫塾で働く人々は 400 名に迫ろうとしています。その経営者としての社会的使命を果たすためには、「中堅会社」の経営者としての勉強が求められます。また、マニー株式会社の社外取締役を務めますので、製造業やマニー株式会社について学ぶと同時に、社外取締役にとって必要な勉強も少しずつしております。(1枚目の「びょうぶ」)

(2)次に私は、経済団体の一員としての活動をしていますので、各々の経済団体のもつ社会的使命(mission、 ミッション)達成のために、一人のメンバーとして勉強をしています。経済団体から派遣され、栃木県や宇都宮市の教育委員会の審議会等の委員を委嘱されていますので、その委員会の委員としての社会的使命を果たすための勉強をしています。

また、とちぎニュービジネス協議会の政策委員長をおおせつかっていますので、その使命を果たすための勉強も少しずつ積み重ねています。(2枚目の「びょうぶ」)

(3)第3に、私は人間の安全保障の促進を設立の理念として発足した「開倫ユネスコ協会」の設立メンバーとしてユネスコ活動をし、ユネスコや人間の安全保障の勉強をしています。2008年秋からは、国立大学法人宇都宮大学国際学部で「人間の安全保障」の講座を担当する予定ですので、そのための勉強も少しずつ重ねています。(3枚目の「びょうぶ」)

(4)第4に、私は CRT 栃木放送でラジオ番組「開倫塾の時間」を毎週1回担当し、21年目に入りました。また、開倫塾の月刊誌の巻頭言を担当し、20年目になります。地元の月刊ミニコミ誌「みにむ」の連載に続いて、2年半前より、月刊誌「私塾界」の連載を担当させて頂いています。放送内容も含め、コラムの執筆のための「勉強」も欠かせません。(4枚目の「びょうぶ」)

*まとめてみますと、私の勉強は次のようになります。私は「4枚びょうぶ型人生」を目指しています。

①経営者を目指しての勉強

②ビジネス・ステーツマン(財界人)を目指しての勉強

③社会教育家を目指しての勉強

④コラムニストを目指しての勉強

これらはすべて関連し、すべて社会的使命(mission、 ミッション)の達成のための「勉強」となります。私自身が「よく」生きるための「勉強」と言えます。

《2. どのような方法で勉強されていますか。5つ程あげてください。》

Q：どのような方法で林さんは勉強していますか。

A：第1は、所属する会社や団体の勉強会への参加です。例えば、会社や、経済団体等で開かれる勉強会、ユネスコ等の社会活動の勉強会など、所属する団体が主催する勉強会にはできるだけ積極的に参加しています。例えば、東京の経済同友会の委員会では、その分野で著名な学者や官僚、政治家、有識者や実務家を続々と講師として招き、講義後、参加している委員との本格的なディスカッションをしたり、その調査・研究の成果を提言にとりまとめて政府等の関係者に提言書として提出することが多々あります。このような「勉強会」は、自分自身が主催団体のメンバーであり、勉強会も運営していますので、主体的に取り組んでいる関係で非常に有益です。

第2は、国内外の国際会議や報告会も含む様々な講演会、BBL(Brown Box Lunch ブラウン・ボックス・ランチ、茶色い袋(Brown Box)に入れた軽食を食べながらの昼食勉強会)へ参加して「勉強」をしています。

(1) 国際会議としては、ダボス会議を主催する World Economic Forum(ワールド・エコノミック・フォーラム)が主催するダボス会議の東アジア版である毎年1回の East Asia Economic Summit(東アジア経済会議)、毎年 G7 の1か月前に OECD 閣僚会議と併行してパリで開かれる OECD Forum(OECD フォーラム)、中国の海南島で毎年開かれる Boao Forum For Asia(ボアオ・フォーラム)などが、私の参加している国際会議の中でも非常にレベルの高いものと言えます。

「雇用」については、毎年6月にベルギーのブリュッセルで開かれる Employment Week (エンプロイメント・ウィーク)が最も有用と考えます。

「大学等の高等教育」ならば、OECD の IMHE(高等教育管理)プログラムが全精力を傾けてパリを中心に行っている各国での国際会議は目を離せません。

(2) 報告会を含む様々な講演会、BBL(ブラウン・ボックス・ランチ)は、様々な主催者が自らの「社会的使命(mission、ミッション)」を果たすために、文字通り「全国各地」で「毎日」のように開催されています。有料のものもあれば、無料のものもあります。そこに出掛けて話を聴いたり、議論に参加するのもよい「勉強」です。日本は世界でも有数の「講演会(勉強会)」の多い国、講演会大国です。

①例えば、東京の青山学院大学の前にある「国際連合大学」や横浜のみなと未来にある「国際連合高等研究所」では、毎月何回か世界や人類の未来を考えるのにふさわしいテーマや講師(ノーベル賞受賞者や各国の代表クラス)による講演会が開かれています。「国際連合大学友の会」などに年会費を払い会員になると案内が届き、また、ホームページからの情報でも申し込みが可能です。

②他にも、全国の大学、大学院、大学の研究所、専門学校、専修学校など所謂(いわゆる)「高等教育機関」が正規の授業以外で開催する講演会や BBL(ブラウン・ボックス・ランチ)などは非常に多いと言えます。正式な教育機関であればあるほど、数年前から十分な準備をしてテーマを決め、人選をし、十分な事前の打ち合わせや議論を経て講演会が開催されます。また、そのときの資料も充実していますので、参加者はよい「勉強」が可能です。

- ③外務省のシンクタンクである「日本国際問題研究所」や経済産業省のシンクタンクである「経済産業研究所、通称(RIETI リエティ)」でも、毎週のように本格的な国際会議、講演会、BBL を開催しています。このように、各省庁や自治体など、公共部門やその外郭団体が、自らの「社会的使命(mission、ミッション)」を果たすために開催する講演会は非常に多く、自分で勉強したいテーマさえ明確になっていれば、とても質の高い「勉強」が可能です。
- ④この他にも、様々な団体がその団体の社会的使命(mission、ミッション)を果たすために講演会や BBL(ブラウン・ボックス・ランチ)のようなカジュアルな勉強会を開催しています。そこに参加することはよい「勉強」になります。

第3は、書物(本)や新聞・雑誌、インターネット、TV(映像)や音声(録音したもの)を通じた「勉強」です。

(1)日本ほど気軽に本が入手できる国は少ないと私は考えます。どのような地方に行っても郊外型の大型書店チェーンが存在し、日本中のコンビニエンス・ストアで本が取り寄せられ、大都会になればなるほどその中心部では本格的な大書店が激しい競争状態にあります。ありとあらゆる新刊本、古書がインターネットで入手可能です。出版表現の自由が、日本国憲法 21 条によって「表現の自由はこれを保障する」と明確に保障されているために、「検閲」や「出版の差止め」はほとんど見られない世界一の自由度と言えます(わいせつ図画は除く)。書物(本)による「勉強」は「勉強」の基本です。日本は、本人の自覚さえあれば、書物を通じての勉強がいくらかでも可能な状況にあります。

(2)インターネットは、国内だけでなく国外の情報を容易に得ることを可能にしました。

マサチューセッツ工科大学(MIT)では、2006 年の段階で、2000 の開講科目のうち 1400 科目の授業内容のシラバスや毎回の講義資料、テストとその解答、授業によってはその映像までも、大学の知を全人類のためにという崇高な理念のもとにオープン・コース・ウェア(Open Course Wear、OCW)という名称のもとで、インターネットで全世界に無料配信、2000 科目のすべての完全開放を目指しています。この MIT が始めた大学授業内容をインターネットで無料配信する「オープン・コース・ウェア」は、全米、全世界に広がりつつあります。日本でも京都大学が中心となり「日本オープン・コース・コンソーシアム」が昨年結成されました。少しずつではありますが、日本の大学の講義内容がインターネットで無料で公開され始めました。

私は、2011 年のハイビジョン全面導入を境に、日本のすべての教育機関が独自性を高め競争力を増すために自らの生存を懸けて自らの教育内容を「オープン・コース・ウェア」の手法で全面無料公開するようになることを確信いたします。世界中でこの動きが一気に加速されますので、日本はもとより世界の「知識状況」は一変します。こと「知識」の分野では、インターネットとこのオープン・コース・ウェアで「国境」は全く無くなり、全面「フラット」化します。この動きを活用できる者と活用できない者との「格差」が、知識基盤社会の最も大きな特徴になると考えます。

日本では情報のほとんどは日本語ですが、外国では英語になります。そこで、英語での情報が日本語と同じスピードで読み取れ、日本語と同じスピード・充実度で発信できることが不可欠な能力(コンピタンス)となります。「情報を相互作用的に活用する能力」が求められると言えます。

ハイビジョンを活用したインターネットには映像も音声も含まれますので、2011年のハイビジョン全面導入後、どのような形で勉強に取り組むかを今から考えておくことが大切であると考えます。

英語の読解能力、とりわけ読解スピードを日本語と同程度までにする訓練を今から積んでおくことが最も肝要と私は考えます。読んで判らない内容は、普通は聴いても判りません。ですから、聞き取りの前提としての英語の読解能力の訓練は重要です。

第4は、旅行です。人は、国内・国外を問わず様々な場所を訪れることにより、多様性(自分と異なった文化、言語、価値観をもった人々が存在し、生きていること)を知ることができます。自分と自分と共に生きている人を大切にするように、旅行中に訪れる地の人々も、自分自身と共に生きる人たちを大切にしていることを知ることで、「寛容」とは何か、「寛容な心」の大切さを学ぶことができます。

第5は、少人数、できれば1対1で議論することです。10名までの少人数の勉強会は非常に有用です。とりわけ1対1、つまり2人での「対話」は、「本格的な勉強」のためには有用と考えます。

第6は、以上第1から第5の「勉強」をふまえて、ものごとの本質を自分の頭で考える自分自身での自問自答、「自分自身との対話」が最も「勉強」になる方法と確信いたします。

Q：勉強の成果を上げるためにどのような工夫をしていますか。5つ程あげてください。

A：第1は、まずはその分野で日本で最高の勉強ができる場所、できれば全世界で最高の勉強ができる場所を探し当て、そこで開かれる勉強会に積極的に参加することです。

例えば、私は「マニー株式会社」の「社外取締役」に3年前に就任しました。その7年前の1997年より、企業統治(コーポレート・ガバナンス)の勉強をしていました。企業統治(コーポレート・ガバナンス)の勉強をするのに世界で最もよいと思われる団体が、ICGN(International Corporate Governance Network、インターナショナル・コーポレート・ガバナンス・ネットワーク)であることを知りました。その後、日本で世界大会が開催されたとき会議に参加させて頂いて以来、会員になっております。日程の都合で世界大会や会合には余り出席はできませんが、郵便やe-mailで配信されてくるICGNからの最新の情報は、できるだけ目を通して見ます。来年の2008年には、6月にソウルで世界大会があるので、是非参加しようと考えています。

日本でのコーポレート・ガバナンスの勉強は、①「日本コーポレート・ガバナンス・フォーラム」、②「日本取締役協会」、③「全国社外取締役ネットワーク」などが盛んなようです。私は①と③に入会し、時間が許す範囲で参加しています。特に③の「全国社外取締役ネットワーク」は、大規模、中規模の勉強会の他に、5～6名の少人数での意見交換を目指すグループでの活動が頻繁に開催されて、社外取締役としての実務上の「勉強」に役立っています。

第2は、その分野での「師匠」、「大家」と呼ぶに値する先生を探し当て、その先生が主宰する勉強会に何をおいても参加させて頂くことです。

例えば、開倫塾はチェーンでの校舎展開を目指しておりますので、チェーンストア理論に基づいた経営が求められます。日本でのチェーンストア理論の権威は渥美俊一先生ですので、私

は渥美俊一先生の主宰するペガサスクラブに入会させて頂き、渥美先生の御著書をできるだけ読むと同時に、ペガサスセミナーにできるだけ参加させて頂いています。また、ペガサスクラブの速記録で公刊されているものは、できるだけ買い求め、手元に置き、何回も読み返しています。同時に、ペガサスクラブで教えを受けた講師の先生(例えば、川崎進一先生、会田玲司先生、武川先生)の本もできるだけ買い求め、読み進めると同時に、先生方の勉強会、例えば会田玲司先生の主宰する日本ホームセンター研究所の会員になり、その勉強会にも参加しています。

その分野の「師匠」、「大家」の先生の教えは、はじめの数年間には別世界、もっといえば宇宙の言葉を聞いているようですが、だんだん慣れてきますと、例えば10～15年くらいたつと霧が晴れたように「ああ、あれはそういうことだったのか」と、「ジワーツ」とわかってくることが多いようです。ただ、頭でいくらかはわかって、実際にそれが実行できるまでにはもう5～10年くらいはかかるのが普通です。なぜなら、頭ではわかって、しくみがなかなかでき上がらないからです。その道の「大家」、「師匠」の教えが実行できるまでには、早くて15年、普通20年～25年かかるのではないかと考えます。

ただ、時間はかかっても、その道の「大家」「師匠」の下に就くのと、そうでない人の下で学ぶのとでは雲泥の差が生じます。

第3は、「励まし合う仲間」を一人でも多くもつことです。「勉強」は「一所懸命」になればなるほど辛いものです。その辛さ、ストレスのために、勉強を途中で中断する人は山ほどいます。そこで大切なのが「励まし合う仲間」を一人でも多くもつことだと思います。

様々な勉強会に行き、心と心が触れ合った人とちょっとの間だけでも立ち話をしたり、時間があったら食事をしたり、お茶を飲むこと。できれば、行き帰りを一緒にしてその間に話をすること。もっと親しくなったら、相互に訪問し合い、率直に意見交換をすることが「勉強」を進める上で大事です。

例えば、高井伸夫先生の主宰する「東京高井倶楽部」のメンバーは、高井伸夫先生を囲んでの勉強会が終了後、近くのカフェでソフトドリンクを飲みながら、近況報告をし、お互いの悩みを打ち明けたり、これからどうするかを親しく話し合っています。「励まし合う仲間」を高井先生によって作ってもらえたと喜び感謝しています。

第4は、自分自身で勉強会を主宰し、志を同じとする人をたとえ数名でも集めて、定期的にお互いの勉強を深めることです。

例えば、開倫塾では1997年より経営品質について研究をし、日本経営品質賞を目指した取り組みをスタート。地方版ではありますが、教育機関としては日本で初めて2002年に栃木県経営品質賞知事賞を受賞しました。

教育機関で経営品質の勉強をするところはないかと探しましたが、見い出すことができませんでしたので、受賞後、全国の教育機関の中で経営品質の勉強をしたい人を募り「教育経営品質研究会」を立ち上げ(2003年度)、毎年10回位勉強会を開催しています。2007年度で4年目に入りました。10名内外の小さな研究会ですが、メンバー同志が相互訪問をしたり、昨年よりその研究会のメンバーが中心となって、年1回先生方の授業の腕を競う「全国模擬授業大会」を開催するに至りました。2008年度は、日本の学習塾や予備校にあたる韓国の「学院」の先生方にも日本の先生の授業を見て頂く計画をしています。

第5は、勉強した内容を自分なりによく「理解」し、その内容を「身に付ける」、つまり「定着」させて、実際の生活や活動、仕事に「役立てる」ことです。

(1)よく理解するためには、厚目のノート・ブックに勉強している内容の「メモ」を取り続けること。取った「メモ」や勉強会等で配付された資料に十分目を通して「理解」したり、必要な内容を「定着」(身に付ける)するための「時間」が必要と考えます。昼間の空いている時間、夜の1時間や早朝の1時間は、勉強した内容の「理解」と「定着」のための時間とすることが大切だと考えます。

(2)同時に、「理解」「定着」した内容を「自分の頭でまとめること」、まとめ上げたことをできるだけ簡単な文章にして残しておくこと。そのまとめ上げた文章を何回も何十回も読み直し、どうしたらよいかを考え抜くことも大切かと思えます。

(3)更に、その内容を他人に伝えた方がよければ、わかりやすいことばで説明をし、伝えるためにはどうしたらよいかを考えること。他人のために伝えようと考えたことを文章にしておくことも有用です。そのとき大事なものは、次の孔子の教えです。

「論語」に、「曾子曰わく、吾、日に三たび吾が身を省みる。人の為に謀りて忠ならざるか。朋友と交わりて信ならざるか。習わざるを伝うるか。」

(通釈)孔子の門人の曾子が言った。私は一日の中で何回も何回も主として次の点について反省する。一つは、他人のために相談に乗った時、ほんとうに誠意をもって考えてやったか、ということ。二つは、友達との交際において、信義を尽くさないことはなかっただろうか。そして、三つには、まだ自分の知識として完全に消化されていない事がらを、他人に教え伝えはしなかっただろうか、と。」(四一四)とあります。

*前掲書、4～5ページより引用。

孔子の教えにあるように、自分でよくわからないことは伝えないことが、相手のことをよく考えれば当然であります。

《4. 経営者あるいは経営幹部として活躍し続けるために今勉強されているテーマは何でしょうか？今後勉強すべきだと自覚されているテーマは何でしょうか？3つ程あげてください。》

Q：経営者あるいは経営幹部としての勉強にはどのようなものがあるとお考えですか。

A：経営者としての「一般教養」、経営者としての「専門的教養」、経営者としての「専門知識」、この3つだと私は思います。

Q：経営者としての「一般教養」とは何ですか。

A：人間とは一体何なのか、人間の幸せとは一体何なのか。人は何のために生きるのか。人類はどのような歴史をたどって現在に至ったのか。日本は、この地域は、これまでどのような状況で、これからどうなるのか。

日本をとりまく国々は現在どのような状況なのか。これからどうなるのか。とりわけ、地域紛争は、戦争はどのような状況か。

日本、アジア、世界の経済状況はどのようになっているのか。当地の経済状況はどうなっているのか。日本の財政、少子高齢化、人口減少、外国政策、消費税の動向はどうか。為替の状況。円高が進めば進むほど増える失業の状況。

要するに、世界や日本の歴史・地理・哲学・思想などをふまえ、日本経済新聞に書いてある程度のことがよく「理解」できるか否かが経営者としての「一般教養」の目標かもしれません。併せて、日刊紙「ヘラルドトリビューン」「フィナンシャル・タイムズ」やロンドンで編集されている週刊経済誌「The Economist(エコノミスト)」が読みこなせるレベルが、経営者としての「一般教養」の目標かもしれません。

Q：「経営者としての専門的教養」とは何ですか。

A：チェーン展開(多店舗展開)するのに、チェーンストア理論を知らないでするのは、戦いに行くのに武器なしで行くのと同じで、負けははじめから決まっています。

会社が大きくなっているのに、「財務」、「マーケティング」や「戦略論」を知らないのでは話にもなりません。

ドラッカーやコトラー、マイケル・ポーターなど各先生の著作は、本格的に腰を落ち着けて読めば読むほど実効性が高いことがわかります。消費者保護法、個人情報保護法、会社法や労働法、独占禁止法などをはじめとするビジネス法規の無知は許されません。製造業では、ISO の取得がなければ取引すらできない場合がありますので、経営者はその骨格を知る必要があります。株式を公開したり、上場している会社では「内部統制」のしくみが十分整えられる必要があります、経営者としての専門的教養として、内部統制の知識は不可欠です。

Q：「経営者としての専門知識」とは何ですか。

A：まずは、その会社の業務内容を、顧客や地域社会、ビジネスパートナーにわかりやすく説明できるレベルまですべて熟知すること。

経営トップとして、会社の企業ドメイン(事業領域)、競争状況、財務状況、組織上の問題点、各事業別の問題点、人事の問題点を熟知すること。

これから新商品、新技術、新販路、新業態をどう開発するかについてリーダーシップが発揮できるだけの専門知識が経営者としては求められます。

Q：今後、林さんが勉強すべきだと自覚しているテーマは何ですか。

A：第1は、「サービス産業の生産性の向上のために製造業から学べることは何か」です。日本の製造業と比べ、日本のサービス業の生産性は極めて低いと大きな問題となっています。「2010年までに日本のサービス産業の生産性を現在の1.5倍にする」と政府の骨太方針にも記された程であります。

人口減少社会の影響を受け続けている学習塾も他のサービス業と同様、生産性が低く、教職員の待遇改善も十分にできない状況が続く学習塾も多いのが現状です。

開倫塾でも早急に生産性向上の取り組みが求められていますので、私の取り組むべき最大のテーマは、サービス産業における生産性の向上を製造業から学ぶことでもあります。

第2は、開倫ユネスコ協会の設立基本理念であり、来秋国立宇都宮大学国際学部で講義を担当する「人間の安全保障」についての勉強を深めることでもあります。

第3は、OECD(経済協力開発機構)のIMHE(高等教育管理)プログラムのメンバーにいらせて頂いておりますので、OECDのIMHEを中心として大学等の高等教育機関の経営についての勉強を深めることです。大学コンソーシアムとちぎの研究者としてレポートをすると同時に、開倫塾でスタートしようとしている企業内教職専門職大学院2010年スタートに向けた準備のために、この第3の勉強は私にとり必要不可欠と考えています。

《5. 若きビジネスマンに勉強に関して助言されたいことを5つ程リストアップして下さい。》

Q：若いビジネスマンが勉強するとき気をつけた方がよいことは何でしょうか。

A：(1)小学校や中学校、高校、大学、大学院、専門学校、専修学校、学習塾、予備校などで勉強したときに使った教科書や参考書、ノートは、大事な宝物として確実に保存した上で、折に触れて読み直し、社会人としての生活に役立てて下さい。

ありとあらゆる仕事は、学校での勉強の上に成り立っています。仕事の基礎はすべて、学校の教科書や参考書、ノートの中にあります。切角、保護者の皆様のお陰で学校での勉強をなさったのですから、学校での勉強を大切に大切に頂き、その上に仕事上の知識を身に付けて下さい。

(2)仕事上の知識を身に付けるのに教科書は普通ありません。上司、同僚、顧客、ビジネスパートナー、地域社会の皆様から教えて頂いたものをどのように身に付けるかが大事です。私の提案は、仕事の上で必要と思われることはひたすら「メモ」を取り続けること。取った「メモ」をスミからスミまで何回も何十回も繰り返し読み、すべて確実に身につけることです。

(3)こま切れの時間を活用して、本をたくさん、ゆっくり時間をかけて読むこと。これはという本は5～6回読み返すこと。読んでいて「ここは大事」と思ったところには「傍線」を引いておくこと。印象も考えておくこと。お気に入りのノートを「書き抜き読書ノート」とし、本を読んで大切と思ったことや心に触れたことを一行でも二行でも書き抜いておくこと。「書き抜き読書ノート」に書き抜いた内容を、折に触れて何回も何回も読み直し、自分自身のものにするをお奨めします。

(4)新聞を1日に1時間以上読んで考える習慣を身に付けること。日本語で読んだ新聞の中でよく内容のわかった記事について、英字新聞でも1日1時間以上読んで考える習慣を一日も早く身につけること。余程気になる語句以外は辞書で引かないこと。「ヘラルドトリビューン」か「フィナンシャル・タイムズ」を、日本語の新聞を読んだ後に読むこと。どうしても大変なら「NIKKEI WEEKLY(ニッケイ・ウィークリー)」を一週間かけて読むことも役に立ちます。

(5)「休みの日」を利用して「ベストプラクティスのベンチマーキング」に出掛けること。これぞと考えるベストプラクティスを志を、同じくした社内外の仲間と礼を尽くして訪問することを月に1～2回継続して行うこと。

1日1回は心静かに机の前に座り、その日1日をふり返ること。週に1日は楽しいことをして、ストレスを次の週にためないこと。学校時代の友達や卒業後知り合った友達に時々会い、友情をあたためること。人と会ったときは、その人の悪いところは一切見ず、よいところだけを見ること。自分のよさを伸ばすこと。(欠点は少しずつ直すこと)

《6. 勉強においてあなたが心掛けていることは何ですか。》

Q：勉強においてあなたが大切にしていることは何ですか。

A：「一生勉強、一生青春(足利在住の書家相田みつを先生のことば)」、「教育ある人とは勉強し続ける人(ドラッカー先生)」という考えが、「いつまでも若々しく生きる(中村天風先生)」、一生涯よく生き続けるために大切と考えて毎日を過ごしています。

